

# 彦根市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間

平成20年度(2008)～平成29年度(2017)

彦根市は、琵琶湖の東岸に位置し、古くから畿内と北国・東国とを結ぶ交通の要衝として長い歴史を刻んできた。国宝の彦根城天守をはじめ5棟の重要文化財が指定されるなど、貴重な歴史的建造物が城山一体に現存し、国の特別史跡に指定されている。現在も、彦根城をランドマークとして市民の生活が営まれている。また、その周辺のまちにあっては、碁盤目を基調としつつも「どんつき」や「くいちがい」の道や路地が、彦根城下町特有の町割を基本としつつ、要所に配置された寺院、武家屋敷、町屋、足軽組屋敷などの歴史的建造物とともに歴史的な景観を象徴している。

このように彦根城下町では、彦根仏壇などの伝統的な工芸品の製造・販売、祭礼行事や能と狂言の継承や茶の湯の伝統など、地域の歴史や伝統を反映した人々の活動が、城や社寺をはじめとする歴史的建造物などが相まって、情緒や風情を有する極めて良好な歴史的風致を形成している。

## (1) 大名文化の継承

### ①現代に生きる「能と狂言」の継承

江戸幕府が、能を式楽に定めて奨励したことから、彦根藩でも能役者を召し抱え能舞台を築いて能を催した。現在、復原した表御殿の中央にある能舞台で、子ども狂言や井伊家伝来の能が催されている。

### ②「茶の湯」の伝統

彦根には、千家など町衆の茶の湯とは異なる、大名茶の系譜を引く茶の湯文化が今日まで息づいている。また、特別史跡内にある埋木舎では、直弼が茶の湯に励んだ澗露軒という茶室において、しばしば茶会が催されている。

### ③堀の利用－「御好屋形船」の運行

特別史跡彦根城跡の内堀において、絵図に基づき再現をした御好屋形船が運行され、彦根藩主井伊家の船遊びが現在も行われている。

### ④小江戸彦根の「城まつり」

毎年11月3日に、馬上の井伊直政を始め、甲冑に身を包んだ人々が旗印を掲げて、城下町一帯を勇壮にパレードが行われている。



①能舞台での能と狂言



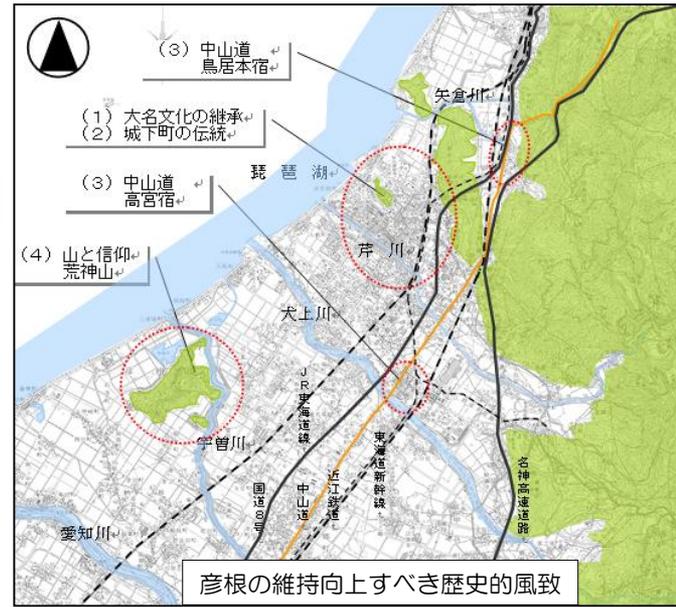
②玄宮園での茶会



③御好屋形船の運行



④城まつり



彦根の維持向上すべき歴史的風致

## (2) 城下町の伝統

### ①足軽「組」の結束－足軽屋敷

江戸時代以来の足軽屋敷の町割りが残る静かな住宅街に、今も足軽の末裔の人々が比較的多く居住され、足軽「組」を継承する単位としてまとまり、各種の会合や防火防災活動などの自治活動が熱心に行われている。

### ②城下町の「伝統工芸」「商い」の継承

彦根城の南東、芹川沿いに七曲がりと呼ばれる地域に、「彦根仏壇」の伝統技術が息づいている界隈があり、江戸時代創業という仏壇店が軒を連ねている。

また、11月下旬の数日間、城下町の古いまちなみを残す各商店街では、1年間の商売を感謝し「糸びす講」と称して大売出しが行われている。この「糸びす講」は、100年近い歴史をもっている。

### ③城下町の伝統行事

夏の盆時期に、地域の人々が諸霊を慰めるため、灯籠に送り火の灯りを入れ芹川へ流す「ひこね万灯流し」が行われている。

### ④城下町に息づく社寺信仰

藩政時代から続く多くの寺院があり、旧寺町での集中的な配置のほか、城下の防御を考慮して内町と外町に計画的に配され、今も多くの檀家衆によって支えられている。

### ⑤「時報鐘」の音風景

彦根城に登城する途中、本丸下の太鼓丸から毎日決まった時間に鐘の音が聞こえる。城下に鳴り響く鐘の音は、「お山の鐘」として市民に親しまれ、「日本の音風景百選」にも選定されている。



②「糸びす講」のにぎわい



③ひこね万灯流し



⑤時報鐘

## (3) 中山道と宿場町

### ①高宮宿と高宮まつり、高宮布

高宮宿は、江戸から64番目の宿として、街道には本陣跡、脇本陣跡、旅籠跡など特徴ある歴史的建造物が数多く残る。

また、高宮宿のほぼ中央には、多賀大社への正式な参詣道である高宮道(多賀道)が延びている。

### ②鳥居本宿と合羽・赤玉神教丸

鳥居本宿の街道筋中央には、道中合羽の形をした看板を軒先の掲げた家が残る。また、街道が大きく鉤手に曲がる一角にある重要文化財有川家住宅は、もうひとつの名産「赤玉神教丸」の製造・販売を現在も続ける店舗があるなど、宿場の面影を良く伝えている。



①多賀大社一の鳥居



②重要文化財有川家住宅

## (4) 山と信仰

### ①荒神山 葬送の山から信仰の山へ

荒神山周辺は、水稻農耕の伝来とともに水田の開墾が進み、山頂には全長124mの前方後円墳があるなど大小様々な小円墳が築かれ、葬送の山として機能してきたが、奈良時代以降は、新しく伝来した仏教の要素が加わり、神仏への信仰の山となっている。



①荒神山

# 重点地区における施策・事業概要

重点地区の名称と面積  
彦根城下町地区 約400ha

重点地区は、国宝・重要文化財建造物などの国指定文化財が集積する特別史跡の彦根城跡を核に、周辺部の彦根城下町およびそこに息づく大名文化や城下町の伝統行事、伝統工芸の活動が行われる区域としている。

これらの貴重な歴史的風致を維持向上することにより、情緒や風情のある良好な市街地が形成され、彦根市全体の魅力向上につなげるもので、この地域における歴史的風致維持向上施設の整備または管理などの様々な事業に取組み、彦根固有の歴史的風致を維持し、更なる向上を図る。

## ①都市公園の整備事業

特別史跡彦根城跡である内堀より内側は、都市公園の「金亀公園」として指定しており、玄宮楽々園の植栽整備事業などを行う。



玄宮楽々園植栽整備状況

## ②道路の整備事業

歴史的風致の重要な要素である武家屋敷、町屋などの歴史上価値の高い建造物が残る。これらを案内する歩行者ネットワークを整備するため、案内サインを設置するとともに、修景舗装等を実施し、良好な市街地の景観形成を図る。



案内サイン

## ③駐車場・駐輪場の整備事業

城下町特有の「どんつき」や「くいちがい」の町割りの中を移動する手段として、レンタサイクル基地等の整備を行う。



レンタサイクル基地  
(彦根駅前)

## ④建造物の保存修理事業

旧池田屋敷長屋門、足軽組辻番所などの老朽化している歴史的建造物の保存修理を行い、市民の様々な活動や憩いの場となるよう活用を図る。



建造物の保存修理[修理後]  
(足軽組辻番所)

## ⑤水路施設の整備事業

彦根城は、内堀、中堀はほぼ完全な形態で現存しているが、外堀は戦後の市街地化に伴い面影を見ることができなくなった。しかし一部の石垣が確認できることから、関連施設と合わせ復元整備を図る。



長曽根口御門(現況)

## ⑥その他の事業

地域住民の歴史的風致に対する熱意を高め地区ごとの特徴を活かしたまちづくりが展開できるよう、まちづくり計画の策定を支援する。



重要伝統的建造物群保存地区  
(河原町芹町地区)

